

池田高校 SSH 卒業生アンケート

高校20期生 Dさん

(聞き手 国語科 原田)

1 まず、あなたは今どのようなお仕事(生活)をされていますか。仕事の場合は、よろしければお立場もお教えてください。

港の設計にかかわる建設コンサルタントをしている。

2 高校時代とはどういう研究をされましたか。

物理班で「心地よい音と不快な音の違いは何か」について研究した。心地よい音（例：川のせせらぎやピアノの和音）を実際に録音して、PC で声紋解析を行ってその結果を発表するというものだった。

3 研究活動の上で、最も印象深かったことは何ですか。

自分たちが解析するための音を、実際に外に録音しに行ったこと。研究のために必要な材料を自分たちの足で取りに行ったことは、それまでの学校生活でほとんどしたことがない体験だったので、とても印象深かった。

4 そこで学んだことはどういうことだと考えますか。

机上でいくら考えても、自分で外に行き、実際に現場に出てみないとわからない、ということである。それは現在の仕事で、港やその関連施設を調査していても日々実感することだが、高校生の時にそのことを実感できたのは良いことだったと思っている。

5 SSH の学びにより、科学的な感性や好奇心、思考力は伸びたと思われませんか。

いわゆる普通科では理科の授業内での実験は少ない場合が多いので、課題研究で座学でない実験をやったり、SSH 関連でフィールドワークに行ったりできたことは、自身の科学への好奇心をさらに高めるきっかけになったと思っている。

6 プレゼンテーションやわかりやすく話す力や表現力は付いたと思いますか。

プレゼンテーションは場慣れが重要なものだと思う。本格的なプレゼンテーションは大学に入ってから行ったが、高校時代にも「研究発表を行ったことがある」という経験は、研究発表のスタートダッシュの半歩先をいけているという感覚があって、その後の大学生活でのプレゼンテーションに気後れすることなく取り組めたと思う。また、それらの経験の蓄積が現在の仕事でのプレゼンテーションでも活かしていると感じている。

7 高校時代が普通の教科学習だけで終わったとしたら、どう違ったと思いますか。

普通の教科学習だけならば理科への興味は少なかったと思う。もともと水族館が好きだったという背景があり、理科への興味はあった。生物だけではなく、物理も好きだった。しかし、SSH のフィールドワークで錦江湾の桜島の隣にある新島に行き、現場で鹿児島大学の先生から錦江湾の生態のお話

を直接聞けたときは、非常に好奇心をそそられた経験だった。それらは座学だけでは決して得られなかった経験だと思っている。

8 SSH の学びは、あなたの理系選択に影響しましたか。また、研究したことで学習意欲は高くなったと思いますか。

もともと理系に進学をする予定だったため、直接的な影響はなかったかもしれない。けれども、SSHを通して実体験を積んだことで、より理系進学への意欲は高まったと思う。

9 現在どのような生活を送っていますか。研究(仕事)はどんな様子ですか。

今の自分に役立っているところはどんなところと考えますか。

現在は港の施工や維持のための調査や設計を行う「建設コンサルタント」という仕事をしている。仕事は多岐にわたっており、港の老朽化の実態調査、維持管理のための建設計画を立てることに始まり、工事を行ったその後の影響を調査したり、離島の景観条例立案のための調査を行ったりしている。

現場での調査からデータをとることが第一にある仕事なので、SSHで得た、「机上でいくら考えても、自分で外に行って、実際に現場に出てみないとわからない」という実体験は、今の自分に活きていると思う。

10 今後の池田高校のSSHについてどう考えますか。期待することなどを教えてほしい。

SSHでの活動は、様々な経験をさせてもらったことに加え、大学の推薦入試では自己PRの際の強みにもなってくれた。高校生の将来の選択肢を広げてくれる活動だと思うので、ぜひSSHを続けていただければ良いと思っている。